

刊夕 日五十月十

常磐毎日新聞

定額 一月五拾圓 三月十五拾圓 半年三十圓 一年六十圓
電話 六三〇
印刷所 常磐毎日新聞株式会社

幼児童話に於ける三つの基礎 (3)

内山 憲堂

五 童話家が話す場合にも幼児童話は一般童話術から離れた一つの獨立した研究の上に立つことが必要である。即ち幼児童話術と云ふ別個の術が生れなければならぬ。

幼稚園に於ける、三四十名の幼児に對して、保姆さんたちが話をする場合には、童話の専門的練習は必要はないけれども、一人の幼児を前にした場合は自らちがつた注意が必要となる。即ち素人ではあるけれども、教育者としての童話に對する研究が要るのである。

ノート 一般に總領や長女はど大きく末子ほど小さい。犬や猫でも大體同様だ。因みにお臍は人體の重心に當る。

母親や祖父が家庭に於てなす童話は、一般童話家になす場合とは全く異なつたものである。童話に對する一般的認識と注意と話材の選擇さへ出来れば、自分の言葉を以て自由に表現す

ることが出来るのである。即ち幼児童話を細かく分けて見ると次の法に要約することが出来ると思ふ。

- 1. 童話家が幼児に話す話
- 2. 幼稚園・託児所・低学年の先生が話す話
- 3. 家庭で母親や祖父が話す話

以上冗漫ではあるが、幼児童話を論ずる場合自ら三つ

- ★0000000000
- 明日の献立
- 0000000000
- 【朝】味噌汁—ねぎ 小付 ぶくませ粟
- 【晝】玉菜 油揚げ煮し
- 【晚】牛肉 すきやき 白菜 漬物

つもの異つた立場があるが故にその例を覗ふかと云ふか、云ふことを明確に示して、その何れに観点を置いて説かれなければならぬ。いと云ふことを述べさせていはいふ。もし、第三のもの「家庭童話」と銘を打つなら幼児童話は二つの基礎を持つことになることは勿論である。

最後に、童話家自身も幼児の心理の上に立脚した幼児童話術の研究に進まれ、幼稚園・託児所、低学年の先生達も、自分の教育の重大なる役目をするものとして教育者として童話を幼児にお與へ下さるやう。更に家

庭に於てはお母様達が「童話は専門家の手に任せる」と云ふ考を捨て、母親の任務として子供達にお與へ下さることを希望する【完】

朝のいとなみ 片上 靖夫

嬰兒が無心に眼ざめるやうに 村の家々は しづかに朝の窓をあける 小さな私の家にも 障子を開けはなつと すぐ前の青い畑から 風が正面に吹きこんで 家中の者がみんなよつて 車座になつてすゝるにほひのいゝお茶が 部屋一ぱいにかほる 縁先の黒土の上では 何時もは饒舌の雀までかつゝましげに歌を唄ひつゝ餌をあさる 紺碧な空には 何と潤容な光だらう 何と潤容な風物だらう 健康で 素朴で 温潤で もういゝ、 それだけでいゝ、 食事がすむと 妻がまづ席を立つ それから私が立つ ともう用意の出来た見が 父ちゃんまだ おそいな と賑やかな催促だ

看護婦急派

求めに應じます

平町南町 平看護婦會 電話三七〇

干ヤナギ 賣り始めました いか切込 鯉節 鯉鹽辛

平土橋

丸仙鮮魚店 電話六六二番

花環 神佛葬具 盛花 久壽玉 御弔燈 寶明燈 靈柩自動車 造花 平新川町本橋屋 三六一電

磐城セメント會社特約店 久全屋同店 磐城平町五丁目 電話九番九九

良品廉賣に勝る商略なし 確實敏捷は久の生命なり

株式賣買

合資三共商事 大町 電話三六〇番

レストラン 平岡館 電話624

中野齒科醫院 院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次 日本齒科 醫學士 西川 誠 平町田町(松月堂向ヒ) 電話五〇九番

喜多流 謠曲と仕舞の 稽古をお奨め致します 平町田町六九 喜多流 謠曲 白土會 電話一二七番

喜びの

豊口主將

感想を語る

本社主催の第二回中等學校教員野球大會に健棒よく強敵を撃破し遂に優勝旗を獲得した磐中ナインは狂喜の渦に捲かれて全軍を統帥し今日の榮譽を擔つた豊口主將は包み切れぬ喜びを押へて左の如く語つた

お蔭様で優勝させて戴きました、壯又快といつた心境以外にありません、全ナイン精一杯に戦ひ特に打撃

に猛練習の効果を現はしたのは嬉しい限りです、磐女軍の大内、土岐、志村の諸先生の技倆には吾々學ぶべき点が澤山あり敬服に堪へません、又審判協會の諸氏の極めて正確な審判に明快なプレーに終始した事を感謝します、來年は是非濱三郡大會として遠來の相、双兩軍を加へて戦ひたいと思ひます

七十圓突破

繭値愈よ奔騰

閉場期限延期

既報晩秋蠶出廻も峠を越した四倉繭市場は昨十四日横濱市況の強氣から俄然高價に逆轉し然も待望久しかつた七十圓臺を遂に制する奔騰振りになり地方養蠶家を狂喜せしめたが當日の取引總數は二百五貫、最高七圓一錢、最低五圓二十一錢、馴六圓三十八錢では是の強氣に刺戟された同市場は既記の如く本十五日に閉場する豫定を廿日まで延期する事になつた因に同日までの晩秋蠶取引累計は一萬一千四百八十八

卅年以上

勤績表彰

内田鐵相から

鐵道省は昨十四日全國従業員の内田鐵相が卅年以上勤績功勞者を内田鐵相が表彰した

が平保線區管内の表彰者は左記十三氏である

(平驛)猪狩觀徳 杉山清光 大村七郎 木幡重貞

花澤綾子 根岸トキ 野フミ

種馬検査

けふ平町で

郡内十一年度種馬検査は本十五日平町及び上遠野村に於て施行されたが平町は午後から團體事務所前廣場で福島種馬検査所、柴所長、林技師河原田縣農林技師の検査があり種馬検査數は現在までの卅一頭に新馬三、四頭であると

七萬尾を

各船が満載し

目下歸港の途中

十四日日本縣指導船磐城丸の無電に依る秋刀魚漁況は宮城縣沖合にある石城各濱出漁船が各廿萬尾内外の豊漁で目下歸港中の由で磐城丸も同日鹽釜港へ廿萬尾を水揚げしたと、向水温良好のため當分豊漁が續く見込みである

藤沼醫師出席

平町

紺屋町醫師藤沼平次郎氏は十一月廿日宇都宮市に開催される關東北醫師大會に本縣代表として出席すると

常陽四倉廢止

常陽

銀行は今回經營の合理化を計る爲め各地の支店出張所廿七ヶ所を廢止する事となり本縣では四倉出張所を廿日より廢止し出張所員は

浪曲と映畫で

水難救済資金

帝國水難救済會本縣支部は資金造成の爲め來月郡下各村で浪曲と映畫の夕を催すが日割左の如くである

(十一月廿一日)植田 勿來(廿二日)平 湯本(廿三日)小名濱(廿四日)四倉

平町人喜

回出生

- △彌宜町六八 田村正一氏 長女智子さん
- △研町八 手塚正春氏二女 正代さん
- △大町二三 前田力氏三女 佳子さん
- △五丁目五 遠藤文吾五女 和子さん

回婚 姻

- △長野縣生れ當時研町八手塚正春氏(三〇)伊達郡小國村大字下小國字緒木四清野ツルヨさん(二六)

回死亡

- △南町 當時茨城縣西茨城郡岩瀬町字大田 鈴木保夫さん(一ツ)
- △南町六八 猪狩フクヨさん(三七)

見習男女工

右至急募集す

希望者來談あれ

常磐毎日印刷會社

長橋町 電話六三〇



平屋洋品店

平町田町通電話五五六番

諸橋外科醫院

(電。四六四)

平新川町二七

内臓外科 皮膚科。花柳病科
レントゲン科

醫學博士 諸橋鐵彌
醫學士 與義弘

吸入用酸素純度 99%

モノサシ
マカリス
ハカリ

秤ノ取緒。垂糸。修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

聞きこみで

明日からは 終局的取調

怪死の真相判明近し

既報三阪村の白石區長怪死事件は既記の如く有力な被疑者四名が本署に留置中の折柄更に有力な聞き込みによつて青年分團長藁谷一與(三)外三名の者が今夕本署に引擧げる齋藤警部補以下

悪ズレした

山間部落民の

太々しい言動

出張の平署員が慨嘆

獵奇の埒場に地方民を戦慄させてゐる三阪村の區長殺し事件に依つて純真朴訥であるとばかり信じて居た山間の部落民が意表外に悪ズレして居る事が判り平署から出張した署員をして不愉快な感を抱かして居る、それは本紙既報の如く殺害された區長の葬儀が悲しみの裡に舉行された席上に於て弔辭中に彌次を飛ばす等の非常識と同時に交通機關に恵まれない部落民の捜査隊の自動車に對する興味心は遂に捜査の邪魔にさいなるので「自動車にふれる可からず」と朱大書して車窓に張出した處三、四人の青

虎眼治療

内郷學校衛生

石城郡教育會並に内郷村聯合で學校衛生普及のため来る廿日午後一時より内郷第三小學校講堂に恩賜財團法人濟生會病院眼科部長山崎順博士を招聘し青島式トラホーム治療法講演及び手術演習を行ふと

自動車ポンプ

操練指導

平消防組が

若松に招る

平消防組は會津若松市から自動車脚筒の操練並に機械取扱法指導方を懇請された

郵便局員の

診療所を設置

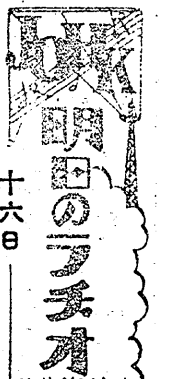
平郵便局は局員の待遇改善として市内に通信診療所を十二月一日から開設と決定目下仙臺通信局に於て囑託醫員診察中であるが診療所は最小限度廿五坪の適當の家屋を借りることになるが醫員、看護婦、小使、事務員、車夫各一名の五名配置太陽燈も設備し將來は擴張してレントゲンも備へる方針である

体育場の

落成を兼ね

武道會開催

内郷村警察健康保險組合が新築した體育場の落成式を兼ね来る廿日午前八時から剣道及び柔道大會を開催すると



今晩は北西の風 明日は北東の風 晴曇半す

今晩の部

後六〇〇 子供の時間 童話劇「三尺三五平」H Kコードモ會
後六二五 青年の時間 「青年職業戦線」演劇
後七三〇 講演「我國憲政組織の正義觀」仁保龜松

明日の部

後八〇〇 長唄 月雪花 詩繪扇
後八三〇 獨唱 原信子
後八五〇 ラヂオドラマ 闇夜創作座
後九三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告
前六三〇 英語講座 片

山俊 前七〇 一朝の修養一日 蓮聖人「遺文馬田行啓」
前一〇三〇 家庭講座 「生活費の問題」桐淵とよ響樂團
後二〇〇 家庭講座「古米と新米」岡村保
後二四〇 小學生の時間 高二地理「神社の話」堀江秀雄
後三〇〇 教師の時間 「高學年の讀方」教育山岸徳平
後六〇〇 子供の時間

お話「藤原釜足公と談山神社」高橋城司、集英社
後六二五 基礎英語講座 岡倉由三郎
後七三〇 講演「我國對外無電の躍進」藤誠一
後八〇〇 お笑ひ道中 「長野の巻」柳家金語樓(長野)
後八三〇 ハーブと尺八合奏 雨田光平 角野錦生
後八五〇 ラヂオ風景 「大阪夜の盛場」BK文藝課案

水神社の祭典

平町は本十五日午前十時から八幡小路配水池構内に鎮座する水神社の祭典を執行した

平裁判たより

△石城郡内郷村字町田八六無職講江盛也(三)は昭和八年十月頃より同九年二月頃まで同村宮字代今野光伊長

双六を種に詐欺

風をくらった三人男

平町の市内に最近新年用の双六廣告を種に豫約金を集めて歩く三人組の男がありやり方に怪しい節がある

平職業紹介所報告

△三助 五十才迄 月五
△六圓 廿五才迄 尋卒
△女中 廿五才迄 尋卒
△旅籠女中 卅才迄 尋卒
△給料面談
△女中 卅才迄 尋卒 月
△四一五圓仕着
△食堂女中 廿三才 尋卒 月六圓
△農夫 卅才迄 月給十二圓
△漁業雑役 卅才迄 月給十五圓
△同 卅才迄 尋卒 月給十二圓
△旅籠番頭 卅才迄 尋卒 月給十圓
△給料面談
△粕入夫 廿九才迄 月給十圓
△豆腐賣子 四十才迄 尋卒 給料歩合

上田病院

平町 南町 電話一二九番



明治太平記

(作) 寺島 健史
(監) 寺島 健史

第二百五十一回

自嘲 (十)

お馬車の一隊はトコトと車の音を立て、はるか街道筋を行き過ぎた。だが大志賀は、そこに突立って、お馬車をいつまでも見送つてをる。

「これ！ 仕事をせい」
「はッ!! 旦那、その岩倉さん一行は何しに洋行されるんでせうか」
「うるさいな……それはなとほく舊幕時代に諸外國と取結んだ條約が、來年になると期限が切れて無効になる」

「なるほど」
「それで、新しく條約を取結ぶ必要が生じた。ところで、いままでの條約は、日本にとつて非常に不利益だつたので、これを改正して日本に有利にしようといふのだ。それには、前以て諸外國と際つき合して條約改正を相談して置く必要がある。岩倉さん一行が歐米各國へ赴かれるのは、第一にその下相談と、歐米諸國の政治文物を視察して來ようといふのぢや……どうぢやわかつたか」

「よくわかりました」
「わかつたら、仕事をせい」
「はい、岩倉さんの留守のまに西郷さんは、朝鮮征伐をなさりませんか」
「うむ……こやつ、とんでもないことを口外するぞ。」



と釘を刺してをいて出發したのぢや」
「へー、旦那は、よく事情に通じてをられますな」
「黙れ、吾輩は、政治に關することは、細大洩さず研究してをる」
「なるほど、旦那は偉い」
「黙れ!」
「なんといふ、意氣地なした。」
と、大志賀は、おのれを叱るやうにこゝろのうちには西郷をのゝしたつた。
岩倉、大久保等の洋行中二ヶ年のあひだ猫のやうに温順しく留守をしてをれといはれて、西郷、副島等が

ところが、岩倉、大久保の御連中が、出發前に、留守内閣の諸公に、内外の政治のことは、大小に拘らずこれを一切改革してはならぬ文武の役人をみだりに免職したりしてはならぬぞといふ二ヶ條をきめて、ちやん

腑抜けな西郷では、どうせ朝鮮征伐も出來まい。
苦々しいことだと、大志賀はスコップの柄を握りながら悲憤した。
「早く仕事をせい」
工事役人はきびしい眼をした。
「はい……旦那」
「こやつ? まだぐづぐづしてをるか」
「はい、西郷さんや、副島さんが、その二ヶ條を、ほんとうに承諾したのでせうか」
「うるさいな……さうだよはじめのほどは、なか」

外科 X 光線科

外科 性病科
科 科
意 隨 院 入

安齊外科醫院
電話四七五番

石炭一〇〇パーセント
サイヴキス

値下げ!

時節柄
ダンゼン
特等塊 正味五〇斤入一俵 金貳拾八錢
一等塊 同 金參拾五錢
品質が優良 デナケレバ 値段バカリ安クトモ結局
目方が正確 高イモノニナリマス
此の点は當店を絶対に御信用願ひます
◎市内は一俵より配達致します
電話三七番
阿部石炭商店

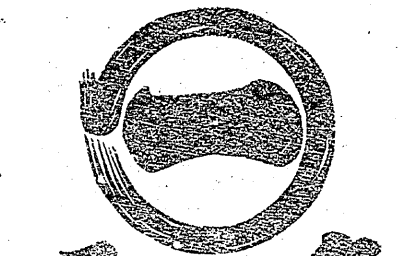
硬論を吐いてをつたが、江藤さんが仲裁役に立つてとにかく大使一行の出發も迫つてをり、諸外國にきこえ

ても面白くないから、承諾したらどうかといふふんどにかく留守居の高官連は機嫌を直したさうぢや」

「二ヶ年間、何もせず居るつもりでせうか」
「うるさいな、こやつ」

名産 城 馨

味美 鯉
当店特製
鯉節賣出し
しほから



魚問屋
店商榮盛賀志
(三一二電)目丁四平

門 專
花柳病科
婦人科
産科
科 科
◎入院隨意

井坂醫院
平町田町 電話五五九番

高久醫院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町田町 電話五一三番
内科小兒科
耳鼻咽喉科
外科花柳病科
レントゲン科